

建築界のウィズコロナ ー働き方・学び方・教え方ー

2020年のコロナ禍は、外出や移動の制限をはじめとして私たちのライフスタイルに大きな変革をもたらしました。オンラインでの業務・交流が急拡大し「ヴァーチャル空間」に注目が集まる一方で、そこでは満たせないもの、失われたものへの気づきから「リアル空間」が果たしていた役割を再認識する機会ともなっています。

今年度の まちとすまいの集い では、このリアル空間の構築を専門とする方々や、またそれを学ぶ学生が、どう働き方、学び方、教え方を変えたのか、その実態を共有するとともに、建築・都市分野の果たす役割や可能性を改めて確認・発見する機会としたいと思います。

日時 2020.12.16(Wed) 16:30 ~ 18:10
形式 オンライン講演会・情報交換会 (要申込)
オンライン会議の URL はお申込みいただいた方にご連絡します。

内容

方法 / 参加者をオンライン会議システム (zoom) でつなぎます。

それぞれの現場から「ウィズコロナの働き方、学び方、教え方」について、臨場感のある生中継で話題提供いただきます (何が変わったのか・変わらない・変わらないのか、ポストコロナの建築界への提言)。

適宜カメラを切り替えて現場の映像も映してもらいます。最後に広く参加者を交えた意見交換を行います。

・話題提供 / 60分 (各5分~10分)

1. 建築設計の現場から・・・山口 智三 (日建設計)
2. 構造設計の現場から・・・片山 貴裕 (NTT ファシリティーズ)
3. 住宅づくりの現場から・・・小島 昌幸 (プライムライフテクノロジーズ (トヨタホーム))
4. ICT・IoTを支える現場から・・・渡邊 剛 (NTT ファシリティーズ)
5. 学び方は変わったか・・・環境土木・建築学科 学生
6. 留学生が抱える課題 (韓国から)・・・南 龍協 (都市環境学専攻 D2)
7. 建築教育の変化・・・小松 尚 (建築学教室教員)
8. 大学という場の変化・・・恒川 和久 (建築学教室教員)

・意見交換 / 30分

コロナで見えたリアル空間の価値とは? 建築・都市分野が果たす役割とは?

・閉会挨拶・・・小松 尚 (建築学教室主任)

司会 / 開会挨拶、話題提供の進行、意見交換の進行
飛田 潤 (構造系)、齋藤 輝幸 (環境系)、太幡 英亮 (計画系)

【お申込先】

お名前・ご所属をご記入の上、下記まで E-mail にてお申込下さい。12月13日締切。

名古屋大学建築学教室 まちとすまいの集い事務局
E-mail:machi@nuac.nagoya-u.ac.jp

主催 名古屋大学大学院環境学研究科 都市環境学専攻 建築学教室